

取扱説明書



UPS モニタ for Windows
ユーザーズ・ガイド【外部コマンド編】

富士電機株式会社

DO094-04-06C

安全にお使いいただくために

●製品を使用する前に、必ずこのマニュアルをお読みください。
●注意事項を守って製品をご使用ください。
●このマニュアルは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に保管してください。

表記について

本書では、本ソフトウェアを安全に正しくお使いいただき、お客様への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示を使用しています。**これらの絵表示の個所は必ずお読みください。**

●安全性に関する事項

	危険	指示を守らないと、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。
	警告	指示を守らないと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
	注意	指示を守らないと、人が傷害を負う可能性または物的被害のみが想定されることを示します。

●安全のために

	注意事項	安全のために、その行為を強制することを示しています。

2011年 8月 第14版

(1)本ソフトウェアおよび、本書の内容の一部または全部を弊社に無断で転載、複製、改変する事は禁止されています。

(2)本書に記載されている各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

(3)本ソフトウェアを使用した事によってシステムや機器に万一トラブルや故障が発生しても、弊社は原因の如何に関わらず一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

(4)本ソフトウェアの仕様および本書に記載されている事柄は、将来予告無しに変更する事があります。

(5)商品の内容については万全を期していますが、ご不審の点や誤り、本書の記載漏れなどお気づきの点がありましたら、弊社までご連絡ください。

(6)本ソフトウェアの CD-ROM 内には、本書記載以外の OS 対応版も同梱されています。
本書記載以外の OS 対応版をご使用になる場合は、その OS 対応版の取扱説明書をご覧ください。

Copyright(C) Fuji Electric Co.,Ltd. All Rights Reserved.

UPS モニタ ユーザーズ・ガイド【外部コマンド編】

目次

外部コマンド編

概要

UPS モニタ 外部コマンドとは、UPS モニタ(コントローラ)が動作しているコンピュータ上の他のアプリケーションから、UPS モニタの機能の一部を実行するコマンドです。また、UPS モニタをインストールしていない他の Windows コンピュータからも IP アドレス指定で UPS モニタが動作しているコンピュータをシャットダウンすることが出来ます。

UPS モニタと通信し、OS のシャットダウンや UPS の制御を行います。

特長

■ **他のアプリケーションからの UPS 制御**

他のアプリケーションから、UPS の制御(例えば UPS 停止/再起動/時間指定起動等)が可能になります。
ただし、接点方式インタフェースの UPS では使用できません。
弊社 UPS の型番と通信方式の対応について詳しくは、**UPS モニタ 付録編「付録 E UPS 通信方式対応表」**を参照してください。

■ **アクセスコードによるセキュリティ**

UPS モニタのアクセスコードを用い実行のセキュリティを保ちます。いたずらや不意な操作ミス等からシステムを守ります。

動作環境

■ オペレーティング・システム(OS)

Windows NT4.0 (Service Pack 6 以上適用のこと)
Windows 2000(Service Pack 2 以上適用のこと)
Windows XP
Windows Server2003
Windows Vista
Windows Server2008
Windows 7
※上記全ての OS 環境下で Internet Explorer 5.5 SP1 以上が適用されていること

外部コマンドの種類

UPS モニタ 外部コマンドには、次のコマンドがあります。御使用になる前に良く読んで理解される事をお勧めします。
UPS モニタ 外部コマンドは、UPS モニタインストール時に UPS モニタをインストールしたフォルダに自動的にコピーされます。

■ UPSTIMER.EXE

OS シャットダウン、UPS 停止/再起動/時間指定起動の実行。
アクセスコードの使用。
動作ログの保存。

コマンド・リファレンス

UPSTIMER.EXE

【機能】

■ 指定した引数に基づき、OS シャットダウン、UPS 停止/再起動/時間指定起動を実行します。
■ アクセスコード(必須)を使用しセキュリティを保ちます。
■ 動作ログを保存します。ログファイル名は DG2UPSTIMER.LOG になります。
■ UPS モニタ(コントローラ)が動作しているコンピュータの IP アドレスを指定することによりリモートから UPS 停止/再起動/時間指定起動が行えます。

【書式 1】(ローカルマシンで実施する場合)

UPSTIMER 第 1 引数 第 2 引数 第 3 引数

```
例)  停止         ： UPSTIMER –p ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ
     再起動       ： UPSTIMER –r ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ
     時間指定起動 ： UPSTIMER –t ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ  2000/12/22  13:30
                               ↑          ↑          ↑
                            第 1 引数   第 2 引数   第 3 引数
```

【書式 2】(IP アドレスを指定してリモートから実施する場合)

UPSTIMER 第 1 引数 第 2 引数 第 3 引数 第 4 引数

```
例)  停止         ： UPSTIMER –p ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ 123.456.78.90
     再起動       ： UPSTIMER –r ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ 123.456.78.90
     時間指定起動 ： UPSTIMER –t ｱｸｾｽｺｰﾄﾞ 2000/12/22  13:30  123.456.78.90
                               ↑          ↑          ↑        ↑
                            第 1 引数   第 2 引数   第 3 引数  第 4 引数
```

【引数】

■ 第 1 引数：処理種別＋アクセスコード

引数	値	説明
処理種別	-p	OS シャットダウン後に UPS 出力を停止します。
	-r	OS シャットダウン後に UPS 出力を停止し、約 30 秒後(値は機種により異なる)に UPS 出力を開始します。
	-t	OS シャットダウン後に UPS 出力を停止し、第 2 引数、第 3 引数に指定した時間に UPS 出力を開始します。
	-h	バージョン情報と、UPSTIMER コマンドのヘルプを表示します。
アクセスコード	任意	UPS モニタに設定したアクセスコードを指定します。 指定しない場合は、アクセスコード無しとみなします。

■ 第 2 引数：起動年月日または IP アドレス

引数	値	説明
起動年月日	任意	第 1 引数に“ -t ”を指定した場合のみ有効です。 値は“ 西暦 4 桁/月/日(yyyy/mm/dd) ”で指定し、 月日は 1 桁指定も可能です。例)2000/9/2
IP アドレス	任意	第 1 引数に“ -p ”と“ -r ” を指定した場合のみ有効です。 UPS モニタが動作しているコンピュータの IP アドレスを指定します。

■ 第 3 引数：起動時刻

引数	値	説明
起動時刻	任意	第 1 引数に“ -t ”を指定した場合のみ有効です。 値は“ 24 時間制で時：分(hh:mm) ”を指定し、 時分は 1 桁指定も可能です。例)8:30

■ 第 4 引数：IP アドレス

引数	値	説明
IP アドレス	任意	第 1 引数に“ -t ”を指定した場合のみ有効です。 UPS モニタが動作しているコンピュータの IP アドレスを指定します。 -p と-r の時は、第 2 引数に指定してください。

【説明】

- ■ 「UPSTIMER.EXE」実行から UPS 出力を停止するまでの時間は、「アプリケーション終了時間」及び「システムをダウンするまでに必要な時間」の合わせた値を使用します。値は、分として値を繰り上げ使用します。
- ■ 「UPSTIMER.EXE」は、実行から UPS 出力を停止するまでの時間を分単位で制御します。
- ■ 動作ログ(DG2UPSTIMER.LOG)のファイルサイズは、1000 行までとなります。
- ■ 動作ログファイルサイズがサイズ上限値(1000 行)を超える場合は、最も古いログデータ行が最も新しいログデータ行で上書きされます。
- ■ DG2UPSTIMER.LOG ファイルを削除または他のフォルダへ移動した場合は、次回 UPSTIMER 実行時に新規作成されます。
- ■ DG2UPSTIMER.LOG ファイルは、スペースでパディングされた 1 行 80 バイトのテキスト形式ファイルです。
- ■ DG2UPSTIMER.LOG ファイルの詳細は、「ファイル・リファレンス」の章を参照してください。



注意事項

※「UPSTIMER.EXE」を実行する場合、「アプリケーション終了時間」及び「システムをダウンするまでに必要な時間」の両項目が「0 秒」となる設定は行わないでください。UPS が停止しない場合があります。

※「UPSTIMER.EXE」実行から UPS 出力を停止するまでの時間は、「アプリケーション終了時間」及び「システムをダウンするまでに必要な時間」の合わせた値を使用します。値は、分として値を繰り上げ使用します。

例)　「アプリケーション終了時間」: 10 秒
　　「システムをダウンするまでに必要な時間」: 60 秒
　　UPS 出力を停止するまでの時間は、2 分となります。

ファイル・リファレンス

UPSTIMER.LOG

(1) ファイル形式

ファイル形式	備 考
yyyy/mm/dd hh:mm [出力メッセージ]<CR><LF> <EOF>	・出力メッセージについては「(2)出力メッセージ一覧」を参照してください。 ・１行の長さ(レコード長)は 80 バイト固定になります。 ・80 バイト未満の場合は、半角スペースで右パディングされます。

(2) 出力メッセージ一覧

No	メッセージ内容	備 考
1	OS シャットダウン開始	
2	UPS 出力開始予定時刻([予定時刻])	タイマー時のみ
3	指定時刻最小値以下エラー発生	実行時から 5 分以内のエラー検出時
4	指定時刻最大値以上エラー発生	実行時から 32768 分以上のエラー検出時
5	指定時刻不正値エラー発生	No.3,4 以外の指定時刻エラー検出時
6	パラメータなし	引数無しでコマンド実行した時
7	パラメータエラー	No.6 を除く引数エラー検出時
8	UPS モニタとの通信エラー(受信不可)	通信エラー検出時
9	UPS モニタ未起動	UPS モニタ未起動状態での UPSTIMER コマンドの実行時
10	DG2 通信取得ポート	コマンド成功時(毎回)
11	アクセスコード不一致エラー	アクセスコードを間違えた時
12	接点式 UPS は、未サポートです	接点式 UPS 時にコマンド実行した時
13	UPS との通信異常(UPS 未接続)	UPS との I/O エラー検出時
14	要求失敗	その他のエラー時